

〔国際会議開催〕

| | | |
|--------|--|---------|
| 申請者 | 和歌山大学 准教授 吉廣 卓哉 | 2205011 |
| 国際会議名称 | The 22nd International Conference on Distributed Computing and Networking 第 22 回 分散計算と情報通信に関する国際会議 (ICDCN 2021) | |
| 開催期間 | 2021 年 1 月 5 日～1 月 8 日 | |
| 開催場所 | オンライン開催 (一部は奈良会場とのハイブリッド開催) | |
| 申請者の役割 | 財務委員長 | |

概要 :

ICDCN 2021 は分散計算, ネットワーク, スマートデバイス, パーベイシブコンピューティング等の近年の重要分野の一流研究者が世界各国から集まり, 研究を推進するだけでなく, 彼らとの議論や交流を通じて日本の研究者・技術者の育成を行うことを目的として, 日本人コミュニティが主体となって開催した。新型コロナウイルスの影響で本会議の主たるイベントはオンライン開催 (一部は奈良会場とのハイブリッド開催) となり残念であったが, 逆にオンライン参加者が 400 名と例年の倍以上になり, 参加国も例年と比較して大幅増で国際色が豊かになる効果があった。特にチュートリアル講演や基調講演を多数実施し, 香港や欧州も含めた国際的に幅広い地域から多数の一流研究者に講演してもらえたのは大きな効果があった。パネルディスカッションやポスター・デモ発表も活発でレベルの高い議論が行われた。例年通り採録論文はハイレベルであり, 内容が非常に濃い国際会議を日本人主導で開催できた。成功と言って良い会議になったと自負している。

日本人の参加者も多く, 今年は日本人の論文も数多く採録された。多くの日本人がハイレベルな研究や議論に参加することで, 日本の研究レベルが底上げされたと考えられる。また, オンライン開催ではあったが, 質疑応答やデモ・ポスターの議論を通じて国際交流も進み, 特に運営メンバーが海外の著名研究者と国際交流する貴重な機会が得られた。基調講演やパネルディスカッション等の話者にも日本人が多く入り, 日本人の研究を国際的にアピールできる機会になったことも成果の一つである。このように, 本会議は, 日本人の研究競争力の強化につながったと考えられる。